第3回生涯学習審議会
資料1

学校施設活用の推進について

（～市民参加型事業評価の改善プログラム案について～）

議論のポイント１　市民のための学校の活用方法や利便性の向上について

【評価人の意見】

より多くの市民が学校施設を活用しやすくするためには、個人利用の検討やイベントの開催など、利用方法を見直すとともに、予約状況の可視化・利便性向上・周知のために予約システムの導入を検討してほしい。

【評価人からの提案】

- 地域ごと、世代ごとに、利用に関するニーズ調査をしたほうがいいのではないか。
- 施設の予約をネットでもできるようにすることで、空き状況が確認できたり、利用料金を取ることになった際に便利になるのではないか。また、既存の施設案内予約システムで調理室などを利用している人向けの周知にもつながるのではないか。
- どんな団体が活動しているのかが分かると、団体に所属したい人にとってはよいと思うので、情報をまとめ、公表したらよいのではないか。
- 団体利用だけでなく、個人利用を進めることや、不定期にイベントを開催することにより、利用率向上につながるのではないか。たとえば、個人利用としては、特別教室などを自習スペースとして開放することも検討してはどうか。

改善の方向性
利用者の利便性や施設のセキュリティ向上に向け、一部の学校で予約システムやシステムと連動したスマートロックを試行し、他の学校への導入拡大を目指します。 また、利用のニーズを把握するとともに、学校施設を活用して個人が参加できるイベント・教室などを開催するなど、多くの方に利用していただくための検討を進めます。

改善に向けた具体的な取り組み		
1	予約システムおよびスマートロック導入による利便性向上	利用者の利便性向上などを目的に、予約システム及びスマートロックを試行導入し、その運用や効果を検証する。
2	利用単位の見直し	多くの方に利用機会を提供できるよう、利用単位（時間）や一ヶ月当たりの利用上限数の見直しを試行・検証する。
3	イベント等の実施	学校施設が利用できることを広く知ってもらうため、学校の空いている時間帯に、個人でも参加できるイベントやスポーツ教室等を一部の学校で実施する。
4	ニーズの調査	利用に関する係るニーズを把握するため、イベント等を実施した学校など、その地域の方々に対してヒアリングを実施する。

議論のポイント２　「学校開放」実施にあたっての公平性について

【評価人の意見】

学校施設を、教育に支障のない範囲で持続的に開放していくためには、利用料金を徴収することやその他の財源確保の手法についての検討を進めてほしい。

【評価人からの提案】

- 受益者負担について検討を進める必要があるのではないか。
- 料金設定については、学割や地域の方については割引をするなど、子どもや地域への配慮が必要ではないか。
- 有料化するにあたっては、キャッシュレスにすることで、利便性も向上するのではないか。
- オンライン予約と合わせて利用料金の支払いができるようになった場合は、ポイント制などを導入すると、お得感が増すのではないか。
- 補助金以外の財源として、ふるさと納税やクラウドファンディングを検討してはどうか。

改善の方向性		
他の公共施設との公平性、事業継続に係る財源確保の観点から、2027 年に予定している「まちだ施設・案内予約システム」の更改を視野に、受益者負担及びキャッシュレス決済の導入を検討します。検討にあたっては、教育施設であることを踏まえたうえで、利用者の利便性、徴収の効率化、年齢や地域活動の継続に配慮した金額の設定などについて整理します。		
改善に向けた具体的な取り組み		
1	無料施設における 受益者負担の検討	現在利用料金を徴収していない学校施設について、公平性の観点から受益者負担の導入を検討する。
2	キャッシュレス決済 導入の検討	現在利用料金を徴収している学校施設等について、利便性向上の観点から、キャッシュレス決済を導入する。